椎木　学議員

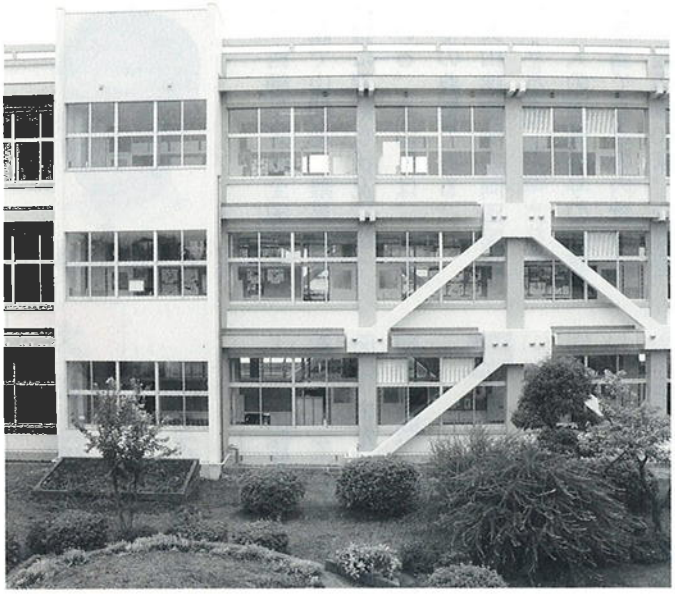
学校統合と耐震工事の調整

統廃合は重要な課題

問 大山町には八つの小中学校があり、耐震補強工事の必要な校舎も数多くある。

このような現況から多額の予算を伴う行政課題として、耐震補強工事と学校統合への検討が必要ではないか。

特に学校の統廃合は財政的には少数統合が望ましいが、多くの意見集約と慎重な判断が求められる。より望ましい大山町の教育行政と教育環境はどうするか。



耐震工事の終わった中山小学校

答（山田教育長）

学校は地域文化の拠点でもある。旧町の学校に対するビジョンをふまえて教育行政を構築するが、分校を含めた学校の統廃合は、特に重要な課題と考えている。十二月の教育審議会最終答申を参考にして、来年三月までに中学校の統廃合の原案を策定する。この原案を広く提示し論議を深め、多くの町民の合意を得たいと考えている。実際に生徒が通うのは十年程先の事と想定している。小学校は中学校の見通しがついてから協議を公にするが実質は大山地区の三校をどうするかである。

耐震補強工事と良好な教育環境については耐震工事と大規模改修工事との同時施工を考えていたが、県教育委員会の耐震工事に関する通達もあり、新たな対応が求められている。従って耐震工事のみを優先しての分離施工も選択肢として検討している。

野口俊明議員

終戦記念日にサイレンを

現在の方法を続けたい

問 戦後62年が経った。8月15日は終戦記念日ということは、ほとんどの国民が知っていると思うが、国も天皇皇后両陛下を迎えて、武道館で全国戦没者追悼慰霊祭を行い、黙祷をしている。

旧中山町では、町民に事前に防災無線で"正午にサイレンを鳴らすので、全員で黙祷をしましょう"というような広報をしていた。そして、成人式の途中とか盆野球の最中とかでも、全員で黙祷を捧げていた。

合併後は、終戦記念日の正午でもチャイムのメロディが鳴り違和感を受けた。遺族会の方も、そういった戸惑いがあり、ラジオを聴きながら黙祷をしているそうである。

国民は戦争で、家族や親族そして財産を失い、生活困窮に喘ぎながら今日の復興を成し遂げた。更に、不戦を誓った憲法も創設された。

この不戦の思いや道徳心を風化させないためにも、是非、終戦記念日正午の時報に、1分間サイレンを鳴らして町民に啓蒙してはどうか。

毎年行なわれる追悼式

答（山口町長）

現在本町では、終戦記念日の前日の夜と当日の朝に防災無線で、日本武道館で政府主催の、全国戦没者追悼式が行われること、及び、戦没者を追悼し世界平和を祈念するため正午の時報を合図に1分間の黙とうを行っていただくように呼びかけている。

役場と出先機関でも職員が黙祷を行っているが、町内の多くの家庭や職場でも黙祷を行っていただいていると思う。

サイレンは災害時等の緊急時のみに限定し現在の方法で続けたい。